

坂井 建雄, 河田 光博●監訳

## 『プロメテウス解剖学アトラス 頭部／神経解剖』

書評者

仲嶋 一範（慶應義塾大教授・解剖学）

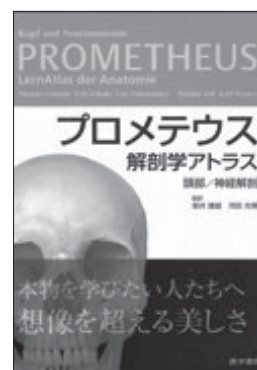
書評を書くに当たり、まずは解剖学実習を終えたばかりの現役の医学生たち数名に率直な感想を聞いてみた。いずれもとても高い評価であり、「こういう本を読みながら実習を進めれば、自分の解剖学の勉強もより効率的で奥深いものになっていたに違いない」という感想であった。そろってそのような感想が出てくるに足るユニークな特徴を、この本は有している。

古典的で著名な複数のアトラスを含め、解剖学のアトラスは数多く出版されているが、本書は、単なる「地図帳」的なアトラスというよりは「図鑑」的であり、子どものころに夢中になって読んだ図鑑のように、いつの間にか引き込まれていろいろなページをめくり、熱中してしまうような面白さがある。医学生にとって必要かつ重要な情報が、コンピューターグラフィックスによる洗練されたわかりやすい画像情報に乗って快適に展開される。情報量は大量であるにもかかわらず、楽しみながら読み進めるうちに知らず知らずのうちにさまざまな知識が身につくものと思う。

本書が「図鑑」的である1つの理由

は、それぞれの図がとてもわかりやすく、立体感をもって精細に描かれている上、見事な画像処理によって、時には表面から透かして奥の構造を表示したり、逆に表面の必要な情報のみを表示して奥の構造を透かしたりするなどの工夫をこらし、立体的な全体の位置関係を容易に理解できるように描かれていることにある。また、単に全体を見せるばかりでなく、それぞれの段階で必要な関連構造のみを提示する方法をとることによって、初学者がポイントをつかみやすくなっている。特に3次元的に複雑な内部構造を有する脳の構造を学ぶ上では極めて有効であろう。画家の優れた感性と高度な技術に感銘せざるを得ない。

もう1つの理由は、単なる人体構造の解剖学的な記載にとどまらず、個々の構造に関連した生理学的な機能やほかの組織との関係、臨床的な事項に関する解説が充実していることである。特に神経解剖については、発生過程から紐解き、最終的な形態が完成するまでの道筋が随所に描かれているため理解しやすい。解説も、それだけが一人歩きすることではなく、あくまでも精緻



で工夫された画像を中心に組み立てられているため、視覚的に頭に入ってくる。単なる「解剖学書」の域を超えて、全身を生きた1つの個体としてとらえ、その中における個々の構造の機能的な位置づけが明確に解説されているため、特に医学部に進学したばかりの学生が解剖実習を行うに当たり、人体探検の素晴らしい案内人の役割を果たしてくれるものと思う。また、高学年や医師になって臨床医学を学んでから読み直しても、それぞれの病態や正常機能の構造的基盤を理解することができ、大変役に立つものと確信する。

本書は、初学者から現役の医師を含む医療従事者、医学関連分野の教員に至る幅広い層に自信を持って推薦したい良書である。本書の日本語版の出版のために尽力された訳者の先生方および関係各位に感謝したい。

A4変型 頁432 2009年 医学書院刊  
定価 11,550円（本体11,000円＋税5%）  
[ISBN978-4-260-00603-3]